

IoT利用の拡大に向けた総合実証とIoTユーザ等のリテラシー向上に係る人材育成

自律型モビリティプロジェクト等の活動

自律型モビリティシステムの開発・実証

革新的ネットワーク、高度地図データベース等と連携した自律型モビリティシステム(自動走行車、自律ロボット・ドローン等)の開発

⇒2018年にYRP等の実際のフィールドにおいて電気自動車、電動車いす、ドローン等を用いた総合実証実験を実施

IoT共通基盤技術の確立・実証

多様なIoTサービスに利用可能なIoTデータ形式の共通化・正規化・抽出技術の開発

⇒2018年に臨海副都心エリア等の実際のフィールドにおいて多様なIoTデータを用いた総合実証実験を実施

密接な連携

IoT人材育成分科会の活動

IoTユーザのリテラシー向上のための人材育成

- ① IoTのユーザ企業等に求められる基本的な知識の要件(スキルセット)の策定
- ② IoTユーザの成功事例(ベストプラクティス)の整理
- ③ 民間事業者による技術検定の推進
- ④ 分野毎・地域毎の講習会等の実施

スタートアップ・若者を対象としたIoT人材育成

- ① IoT人材育成ハッカソンの実施
- ② IoTモノづくり体験教室の実施

※今後も様々な活動を展開予定

5Gモバイル推進
フォーラム

相互に連携

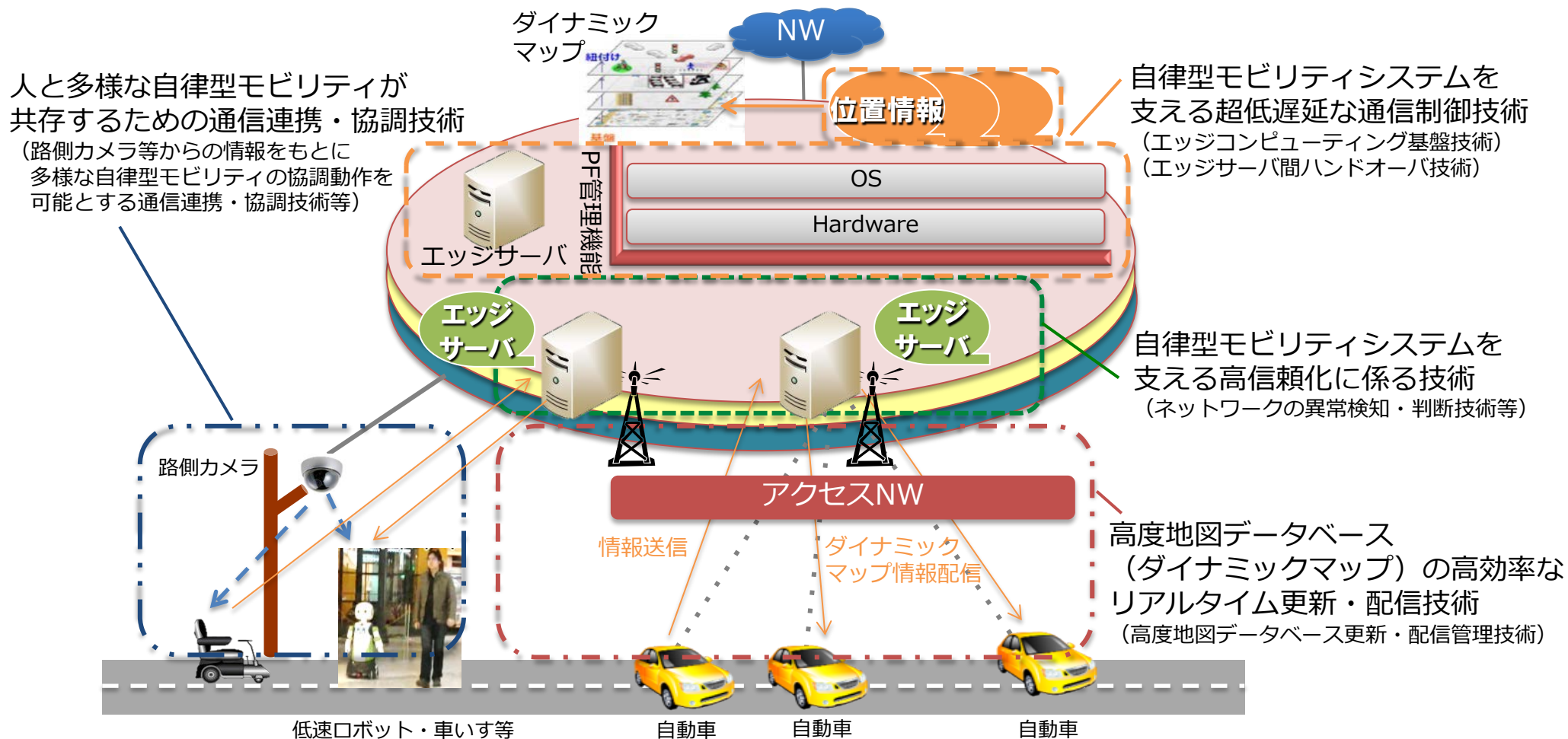
反映

スマートIoT推進フォーラムの
多様な分野の会員のニーズ

自律型モビリティシステムの開発・実証について

- 自律型モビリティシステムの基盤技術の開発を行い、その開発成果を結合し、通信ネットワーク・情報処理基盤・セキュリティ基盤を一体とした自律型モビリティシステム用プラットフォームの構築と実証実験を実施。
- また、インターフェイスの技術仕様の公開等により、スマートIoT推進フォーラムの会員等が電気自動車、ロボット、ドローン等を自由に接続して実証可能なオープンテストベッドを構築し、YRP等の実フィールドにおいて社会実証を推進。

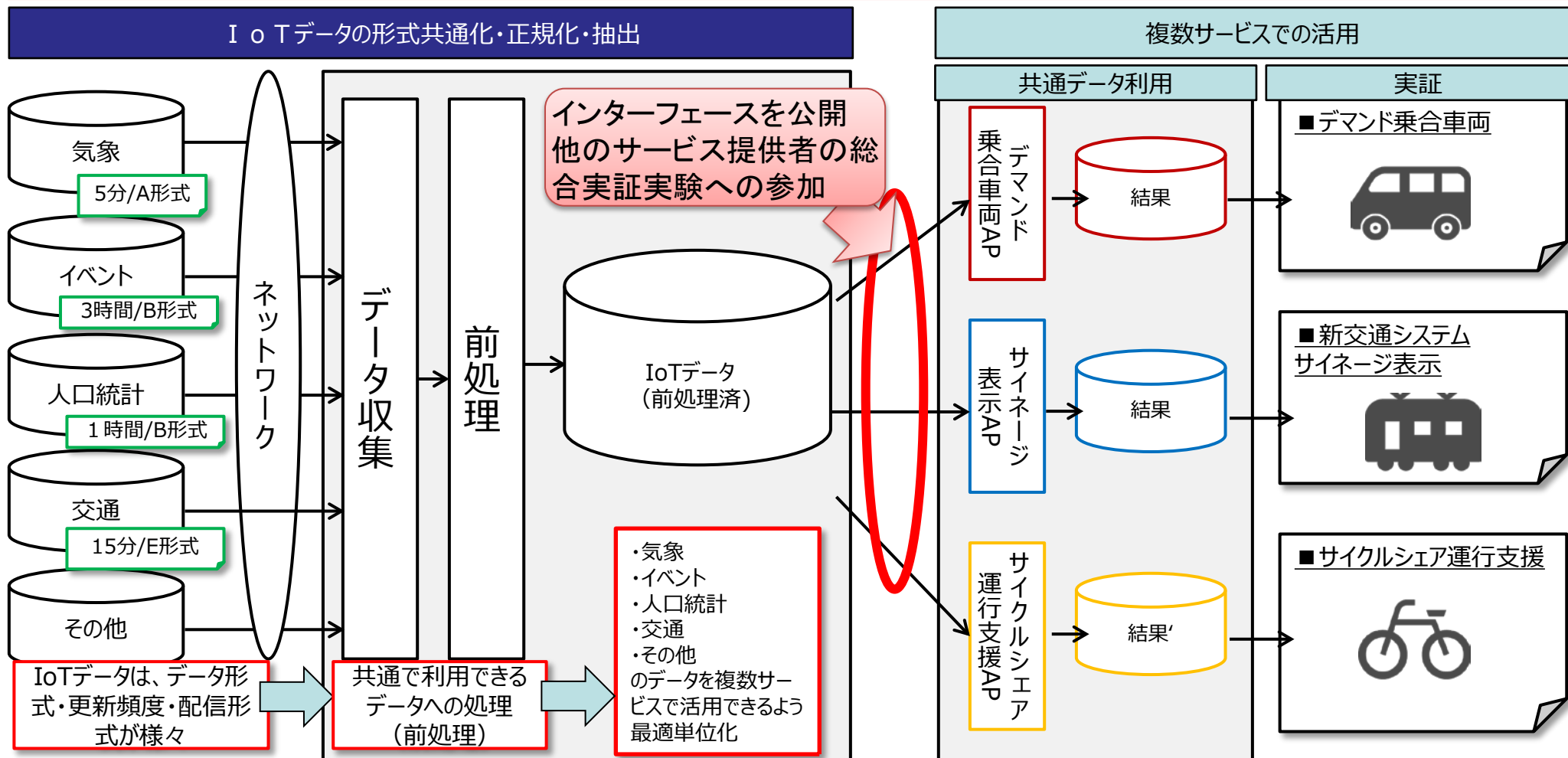
自律型モビリティシステムの開発・実証の全体像



IoT共通基盤技術の確立・実証(IoTデータの形式共通化・正規化・抽出技術の開発)

様々なIoTデータを複数のサービス提供者が利用するためのIoTデータ形式の共通化・正規化・抽出技術の確立、および機能の有用性や実用性を交通分野をモデルケースとしてサービス実証を通じて検証。

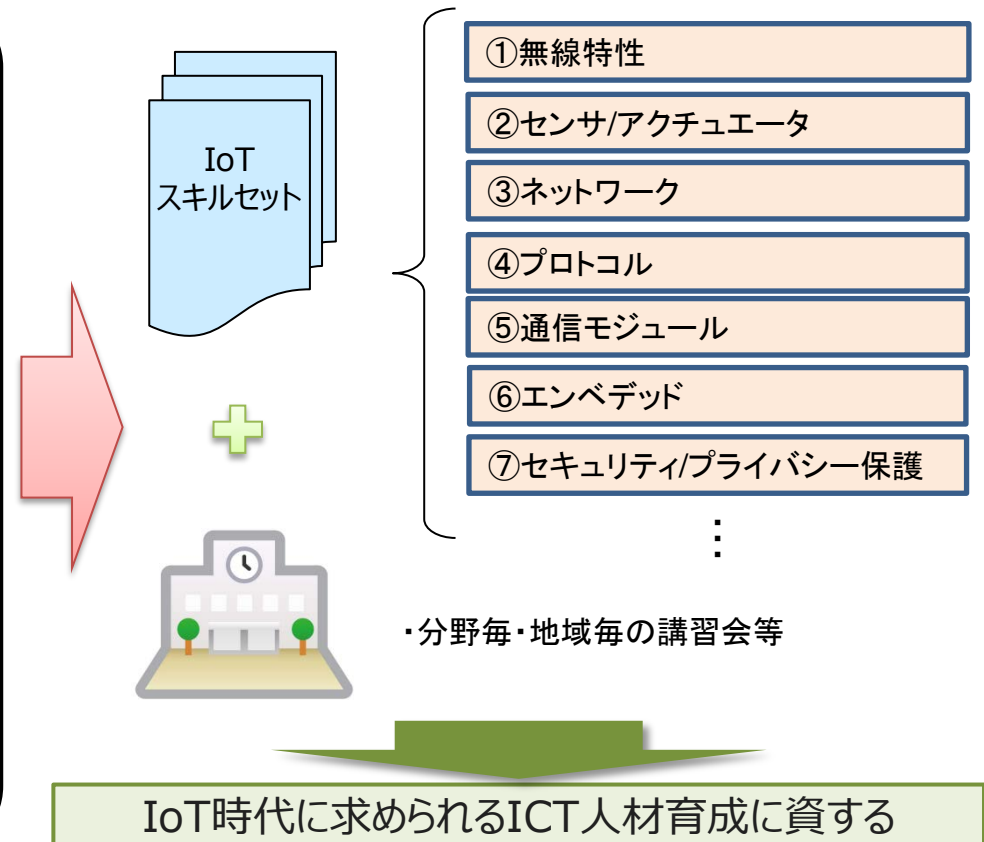
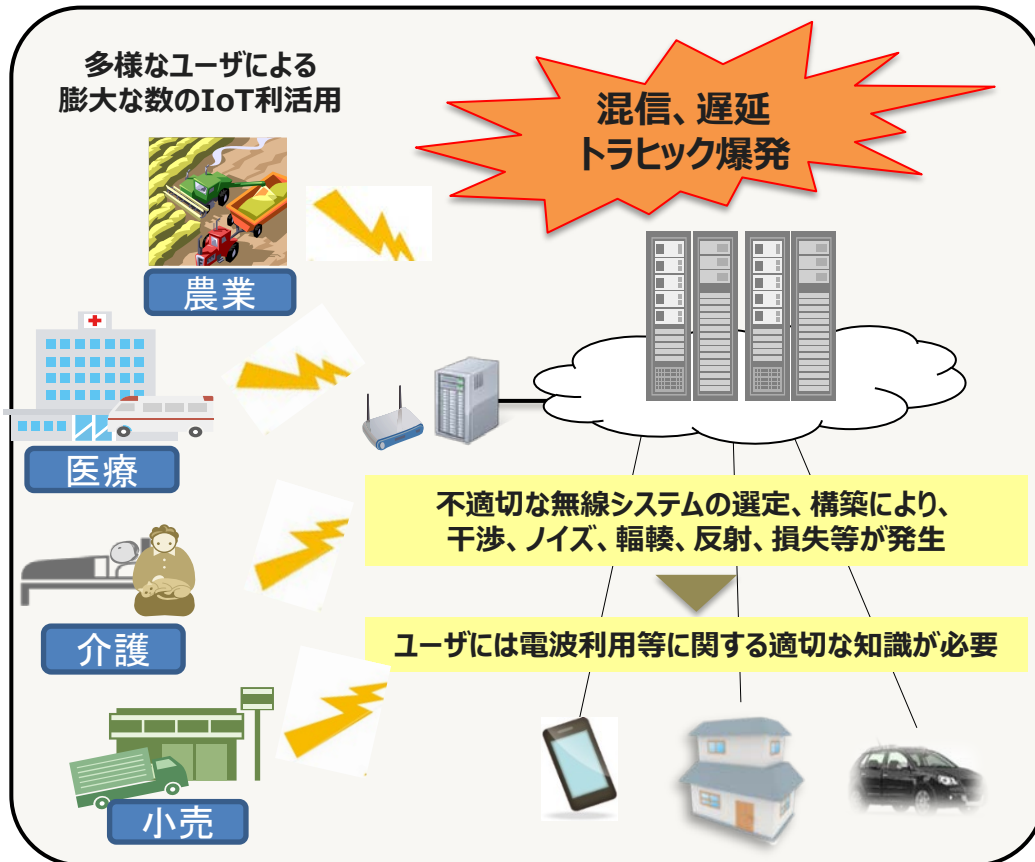
交通分野の様々なIoTデータは、データ形式・更新頻度・配信形式が様々であり、複数のサービス提供者が利用するためには、共通で利用できるデータ(前処理済)が必要。このため、データの最適な共通単位の検討を行うとともに、複数サービス提供者がセキュアかつ便利に利用するための共通機能の開発と総合実証実験を実施。



多様なビジネス分野におけるIoT利活用に向けたユーザーのリテラシー向上に係る人材育成の推進

- 今後、多様な分野・業種において膨大な数のIoT機器等の利活用が普及し、新規ユーザーが急増することが見込まれている。適切なIoT機器等の選定や利用が行わなければ、混信、遅延等が発生してその導入の支障となり、IoTの円滑な普及の妨げになる。特に、今後のIoT利用の拡大を鑑みると、電波有効利用の観点からも多様なユーザーのIoT利活用に係るリテラシーの向上を図っていくことが必要。
- そのため、IoT機器のユーザーに求められる基本的な知識の要件(スキルセット)を策定するとともに、民間事業者による技術検定、分野毎・地域毎の講習会等の周知啓発事業を実施。

※ 2020年にはIoT機器は世界で500億台以上

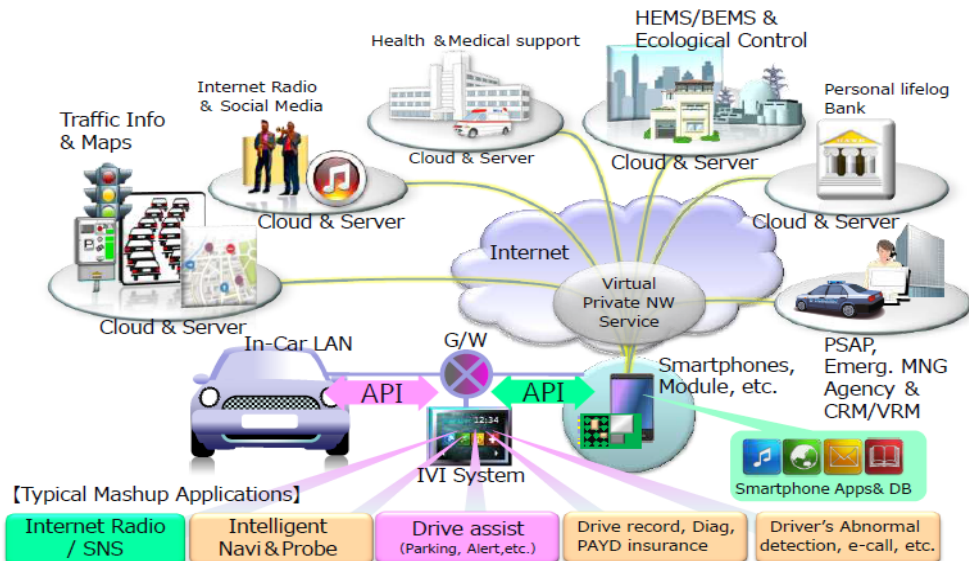


スタートアップ・若者を対象としたIoT人材育成

- IoTを総合的に理解し、使いこなせる人材、アイデアを発想できる人材が求められており、スタートアップや若者を対象として、アイデア・ソリューションを競うハッカソンの取組や開発キットやオープンソース等を使った開発(モノづくり)を通じた体験型教育を推進。

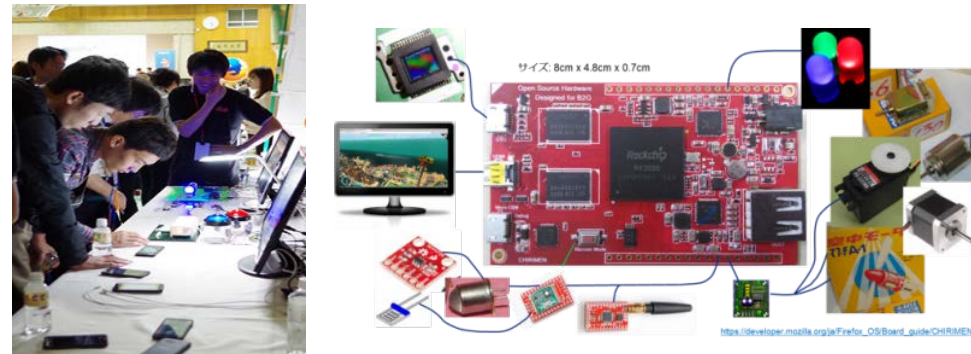
Webとクルマのハッカソン

- Web技術の高度化に伴い、**車内ネットワークの情報とWebを通じた様々な情報を連携させた新たなビジネスモデル創出が期待。**Web技術の国際標準化団体であるW3Cにおいて、車両情報活用に関するAPIの標準化が進められている。
- 2016年1月、**クルマの情報とWeb技術の融合による新たなサービスやアプリの創出、Webと車の連携に関する普及啓発・裾野拡大を目的として、「Webとクルマのハッカソン」を開催。**



Mozilla Factory CHIRIMEN[※] Open Hardware Project

- 「“オープン”を軸としたモノづくりを学び、実践する場」として、2012年春にMozilla Japanが構想を発表。
- オープンな思想のもと、**専門家、大学生、中高生が一緒になってモノづくりのプロジェクトに実際に参加することで、そのプロセスの中から気付きや学びを得て、皆でイノベーションの種を作っていく**枠組み。
- これまでのWebの概念にとらわれることなく「自由な発想で“モノづくり”を行いながらプロトタイプを作成を目指すLabo(実験室)的なプロジェクト」等様々な取り組みを実施。



※CHIRIMEN: センサーやアクチュエーターなどの物理デバイスをWeb技術だけで制御することができるオープンソースの開発環境で、ボードコンピュータとその上で動作するソフトウェアを含めた総称。

アンケートへの御回答のお願い

自律型モビリティプロジェクト等

【アンケート内容】

- 自律型モビリティシステムの開発やその総合実証実験について、具体的な要件・御要望があれば御回答ください。
- IoTデータの形式共通化・正規化・抽出技術の開発やその総合実証実験について、具体的な要件・御要望があれば御回答ください。
- その他に本プロジェクトの活動にコメントがあれば御回答ください。

IoT人材育成分科会

【アンケート内容】

- 多様なビジネス分野等でのIoTユーザ企業等に求められる基本的な知識の要件(スキルセット)について、コメントがあれば御回答ください。
- 多様なビジネス分野等でのIoT利用の成功事例(ベストプラクティス)を御存知であれば御回答ください。
- その他に本分科会の活動にコメントがあれば御回答ください。